

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092300058		
法人名	株式会社 ケアサポートふきのとう		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地	長野県諏訪郡下諏訪町西四王5000-8		
自己評価作成日	平成24年1月28日	評価結果市町村受理日	平成24年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成24年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件がよい。デパート、コンビニエンスストア、飲食店、美容室などが近くにあり、ご利用者と出かける機会が多くもてる。天候の良い日、寒い時期以外は、ほぼ毎日散歩に出かけている。地域の方々が、声をかけてくださるなど、交流の場にもなっている。
 天候の悪い日は、体操などで体を動かし、健康を維持している。
 もともとあった民家を改築しているので、家庭的なつくりになっている。階段の上り下りも日常的にしている、筋力の維持にもつながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはH23年3月開所し民家改修型の1ユニットを運営し間もなく満1年となる。空家をそのまま活用しているため、1階部分は共用のスペースが殆どで、居室の多くは2階に配置している。この環境をバリアと捉えず、階段の昇降を行いながら筋力維持・増進に活用している。また住宅地にあり、歩いて行ける距離に商店や公民館・公園等があり、恵まれた立地環境を活かし、ほぼ毎日散歩等の外出を楽しんでいる。地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域との関わりを大切に支援を行うなかで、散歩中に地域の方々との自然体の交流が生まれ、ホームを知ってもらう機会ともなっている。また代表者は地域ニーズを把握し、現ホームの隣に1ユニット増築中である。管理者や職員は1日1日を大切に支援し、利用者が「良かった」と感じて頂けるケアサービスに取り組み、その中のひとつの活動として、音色のある(楽器の演奏や歌・CD等)日常を、職員と利用者と共に楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目		項目			
		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのかかわりの大切さについて、職員に伝えている。実践につながるよう努力している。	ホーム立ち上げ時に代表者や管理者が中心となり、'その人らしさをいつまでも'を理念とし、利用者と地域・ホームと地域等の関わりを大切にした支援に取り組まれている。	間もなく1年が経過すること、また1ユニット増築に当たり、全職員で地域密着型サービスの意義を踏まえた理念について話し合い、再確認(作り上げ)し、ホーム内に掲げ、全職員で共有や意識付けを行い、運営やケアサービス提供に反映されて行くよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・散歩や買い物にでかけ、地域の方たちと挨拶や会話をしている。畑仕事をしている方が、野菜をくださることもある。 ・地区の夏祭りや行事に参加させてもらっている。	自治会に加入し回覧板が来る。公民館が近くにあり、お祭りの準備に向かい行ったり、地域の行事や催しに積極的に出かけて地域の一員として役割を果たしている。公園等ホーム周辺の散歩を毎日する中で、自然な形で地域の人とふれあう機会が生まれ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生の受け入れをしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所一年目ということもあり、なかなか都合を合わせるができない状況。 会議では、質問や課題が出された。サービスの向上につなげていかれるよう努めている。	会議には利用者や家族代表、町や諏訪広域の担当者、介護相談員、民生委員、地域の方々等が出席され10月に開催。1回目でもあり、多くの感想や意見、また課題や提案が出され今後に繋いでいる。今年度中に2回目を開催予定であると伺いました。	定期的な開催(2ヵ月に1回)を行う(無理のない計画)と共に、今回の評価結果の開示や評価で明らかになった課題や取り組み等について会議で報告し、協力や助言を頂きながら一体的に取り組む、サービス向上に繋いで行くよう希望します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務的な事だけでなく、日頃の様子を伝え、協力関係を気づくようにしたい。	運営推進会議への出席を頂くと共に、代表者は常に町に出向き、懸案事項の相談をしながら進め、協力関係を築いている。代表者から管理所に報告があり、必要な情報の共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や、勉強会の開催を計画する予定。 安全面に配慮し、見守りなどをし、自由な生活をしていただくようにしている。	民家改修型ホームであり、その構造上2階に多くに居室がある。その為階段の降り口は、夜間は鍵をかけている。職員はセンサーやコールにより対応したり、モニターを見て安全確保や対応に努めている。日中は玄関の開放を含めて自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や、勉強会の開催を計画する予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や、勉強会の開催を計画する予定。 成年後見が必要なケースがでた場合、対応できる体制づくりをしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項や料金、事業所のできることできない事を詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時、ご利用者の様子をお伝えしながら、思いなどを聞くよう努めている。ご利用者や家族が、意見・苦情を言える雰囲気づくりに努めている。	運営推進会議や公的な苦情相談窓口等を示し、外部へ表明できることを説明している。日常的には電話での報告や家族の来訪時に、意見や要望を聞き取るよう努めている。また利用者のしたいことや思いに気を配り日々の支援に繋いでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞くようにしている。日頃のコミュニケーションの中で聞き出すようにしているが、言いにくい事もあるので、把握できるよう努めている。	毎月の職員会や必要に応じて会議を設け、要望や意見を聞いている。代表者・管理者は日頃から職員のアイデアや支援に対する気持ちを受け止める姿勢を持って接しており、職員と共に日々の支援に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の代表者も時々現場に来ていて、よい環境づくりに努めている。 職員の話をきき、職員の間関係や環境の改善に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の職員会議の際、研修を行っている。外部研修になるべく多くの職員が参加できるように検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の場に参加するよう、検討している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面談で、生活状態や身体状況などを把握するよう努めている。 ・サービスの利用について相談があった時は、本人の思いをきき、職員との信頼関係をつくるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・これまでの家族の苦労や思い、経緯などをきき、ご家族が求めている事の理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の相談で、本人やご家族からゆっくり話をきき、事業所でどのような対応ができるか検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に役割をもってもらったり、家事と一緒にやってもらい、助け合いの関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	書類を郵送する際、本人の写真など同封し、様子を伝えている。 ご家族の訪問時、ご本人の様子をお伝えし、本人と過ごす時間を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の中には、時折友人から電話がかかってくることもある。ご利用者のなじみの関係を把握し、関係を継続できるよう努めている。	‘その人らしさをいつまでも’の支援のもとに、家族や知人・地域の方々からの自由な来訪を大切にしている。日常の電話や年賀状の仲立ちになることや、お墓参り等…一人ひとりのこれまでの生活を尊重した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同志、会話の場をもうけたり、職員が間に入りかかわりを持つようになっている。トラブルが生じた時は、お互い嫌な感情が残らないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、これまでの生活が継続できるよう、情報交換をおこなう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、思いや希望を把握するようつとめている。	職員は担当する利用者の‘気もちシート’を作成することを通して利用者を深く見つけ、思いの把握に努めている。センター方式のシートの活用や、日々把握したことを申し送りノート等に記し、全職員で共有している。さらに職員会で検討し、一人ひとりの意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のかかわりの中で、過去の暮らしぶりの把握につとめている。 プライバシーに配慮し、ご家族から情報を伝えてもらうよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子から、できることの把握に努めている。 ご利用者の心身の状態を、職員同士伝えあう努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の日々のかかわりの中で、思いや意見を聞き逃さないようにし、職員同士情報交換をしている。 情報を反映させるよう努めている。	毎月の職員会で情報・意見交換を行い、介護計画作成担当者により作成。家族の来訪時に説明や意見を聞き、利用者にも説明した上で本人サインを頂いている。定期・随時の見直しを行い、それぞれの意見を反させ現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	すべての職員が、日々の記録を確認し把握するよう義務付けている。記録を生かし、実践に生かすようつとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の受診など、ご本人やご家族の状況や要望に応じて対応している。 ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎などの支援をし、個々の満足度を高めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやイベントに参加している。 近くに美容室があり、散髪に行っている。ご利用者の理解をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望をきいている。ご家族が受診に同行できない方は、事業所の協力医療機関に変更してもらうこともある。	事業所の協力医の他、利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。通院は家族の付き添いを基本とするが、不可能な場合は職員が代行することもある。受診後は家族へ必ず報告し、医療に関する情報の共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はなく、訪問看護等も利用していない。 体調不良の場合は、かかりつけ医を受診するなど、対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病状の他に、ご本人の普段の様子やADLについて伝えている。入院中は、ご家族と連絡を取り合い、早期退院につながるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、事業所に対応できるケアについて、説明している。	重度化した場合について入居時に、事業所の方針を説明し、本人・家族に了解を頂いている。契約書に基づき、退去時・退去後の援助についても事業所が出来る支援等の説明をし、理解を頂いている。	全職員で重度化(具体的な状態の把握)に向けた方針や具体的な支援についての話し合いを希望します。急変時の対応を含め、重度化に対する職員意識を高めると共に、利用者の状態に変化がある度に家族の気持ちの変化も受け止め記録し、話し合いの機会を積み重ねて行くことを希望します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修を行う予定。 地域の消防団に依頼し、救急の研修を行う予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行う予定。緊急連絡網を作成し、職員がすぐに対応できるようにしている。	開所1年目という事情もあり、防火管理者を中心に地震火災を想定し1回訓練を行っている。	季節・昼夜を問わず何時発生するか分からない災害に対して、利用者の命を守る為に、マニュアルを検討・作成し、全職員が通報でき、一人ひとりの状態に沿って避難誘導・避難先でのケア方法等について適切に対応できるよう、定期的(年2回)訓練の実施を希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃のケアの中で、気になる言動や行動などがあった場合は、その都度確認しあっている。又、職員会議で話し合っている。	日々の支援の中で、お互いに気になる言動について会議の中で取り上げ、話し合いを行っている。時にはその都度、お互いの気づきや自己の振り返りを通して確認し合いながら、利用者を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮がちな方、うまく表現できない方など、ひとりひとりに合わせ、答えやすいように気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは、メリハリある生活の為に持っている。その他はご本人のペースで過ごしていただいている。外出や、行事は、職員の都合で決めていることも少なくない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の習慣に合わせ、化粧やおしゃれをいただいている。ご自分でできない場合は、職員と一緒にコミュニケーションをとり、意思を確認しながら手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しは、ご利用者と行かれる時は一緒に行っている。 時々、ご利用者と野菜のカットなどを一緒にやっているが、ほとんど職員が行っている。食器の片づけなどは日課にしているご利用者もいる。	利用者が米をとぎ、食材を切ったり、盛り付けや、配膳、後片付け等、共に行っている。食事中も利用者同士や職員と談笑する姿を拝見した。食材の買い物や回転ずしに出かける等の楽しみ支援も行っている。1年目でもあり、より良い方向を探りながら取り組み中である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や体調を把握し、記録している。 メニューはバランスを考え、職員が交代で考えている。栄養のバランスに不安を感じている職員も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方は声掛けし、説明が必要な方は見守り介助をしている。 自力でできるご利用者は口腔内の状態が把握できていないので、課題。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくおむつを使わず、又自立できるように支援している。入所から、改善されている方が多い。	トイレでの排泄の自立支援を大切にし、利用者の状態・課題を把握し、ケアを行いながら、改善や自立に向けた取り組みが行われている。夜間の対応やポータブルトイレ・排泄用品使用に関して個別検討を行い、排泄記録を職員間で共有し、気持ち良い生活を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	天候の良い日は、毎日散歩にでかけたり。毎朝ラジオ体操や、便秘体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	目安として、入浴日を決めているが、要望に応じて変更し、入浴していただいている。	週に2日以上を目安として入浴している。拒否的な利用者に対しては、担当者を代えて声かけを試みたり、タイミングを捉える等の工夫をしながら無理のない入浴を支援している。入浴剤やゆず湯、歌の好きな利用者と歌を口ずさむ等の楽しみを取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩や体操をするなど活動を促し、ひとりひとりの体調や要望に合わせて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの処方箋を個人のファイルに保管し、内容が把握できるようにしている。 服薬時は、手渡しで服用できる方も、きちんと服薬できているか確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お願いできそうな仕事を頼んだり、自分から「やるよ」と言ってくれた時はお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。 ひとりひとりの得意な事や楽しみを生かし切れていないので、課題。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期受診の帰りに、希望に合わせて外食や買い物をしたりしている。 職員の都合で、外出先、ご利用者、時間帯、行き先などが決まってしまう事が課題。	立地環境を活用し、ほぼ毎日ホーム周辺(公園等)の散歩に出かけている。個人の行きたい所(墓参り・カットハウス等)に出かけたり、皆の楽しみ(レストラン・イチゴ狩り等...)のドライブを兼ねた外出を計画的に支援している。現体制の中での、できる支援に取り組まれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、事業所で預かっているが、希望に応じてご利用者によって、手元に少額を持ってもらっている。 手元にないことに、不安を感じている方には、預かっている事を説明したりしているが、工夫が必要。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人、知人などからの電話があったら、場所などを考慮し、取り次いでいる。 ご利用者から電話をかけたり手紙を書く支援まではできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	作りは民家を改造していて、お風呂やトイレは普通の家庭と同じようになっている。 飾り付けは家庭的になるようにしている。	民家改修型ホームとしては、玄関ホールやリビングはゆとり感がある。リビングは対面式の台所と一体となっていて利用者と共に活動しやすい配置であり陽当たりも良い。浴室は家庭浴槽で家庭的であり、展示物や飾り付けも施設ぽさを感じさせない。2階への階段は両手で手すりにつかまり、1段ずつ昇降できるよう配慮している。またエレベーター設置を検討中である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールやリビングの空きスペースにソファを置き、くつろげるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや仏壇など、馴染のものや大切な物を持ち込んでもらっている。	居室(和室3・洋室6)は全室に冷暖房・加湿器・空気清浄機が設置され、乾燥や感染予防など、健康面に配慮している。ベッド以外の衣装かけや箆笥・仏壇、利用者の大切にしている品々が持ち込まれ、その方らしい生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの理解力や身体状況に合わせて、表示をしたり、手すりを設けるなどしている。できるだけ本人の力でできるように、その都度検討している。		

目標達成計画

作成日: 平成24年3月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念について、全職員で共有、意識づけが不十分。1ユニット増築にあたり、全職員で理念の再確認が必要。理念を運営やケアに反映できるようにする。	全職員が、理念をいつも心にとめ、同じ方向を向いて、ケアサービスを行う。「その人らしさをいつまでも」の具体的な意味を共有する。	職員会議の度に、理念の再確認、「その人らしさをいつまでも」の意味を考えていく。理念を、いつでも見れる所にかかげ、意識できるようにする。	12ヶ月
2	13	災害対策について、色々な場合を想定した非難訓練を行っていく必要がある。災害対策のマニュアルを検討、作成する必要がある。	災害時、ご利用者を安全に避難誘導できるよう、体制をつくる。避難先でのケアが適切に行えるようにする。地域や消防の協力を得る。	色々な場合を想定した訓練を行う。年に2回、内1回は消防署の方に来てもらって行う。避難マニュアルを作成する。避難場所の確保、備蓄(食糧、防寒など)の用意を行う。地域や消防の協力が得られるよう、依頼する。	12ヶ月
3	12	今のところ、重度化した場合や終末期について、話し合いなど行っていない。急変時の対応を含め、重度化についての意識を高め、ご利用者の状態に変化がある度にご家族の気持ちの変化も受け止め、話し合いの機会を積み重ねていく必要がある。	全職員が、重度化について、意識を高める。緊急時の対応や、重度化についての知識を得て、対応ができるようにする。	緊急時の対応、重度化についての研修を行う。重度化に対する話し合いを行う。重度化に対するマニュアルを作成する。	12ヶ月
4	3	開所1年目ということもあり、運営会議がなかなか都合をつけることができなかった。定期的に行う必要がある。	定期的な開催を行う。協力や助言をいただき、サービスの向上につなげる。	定期的な開催を行う。開催時間、会議のスタイルなど工夫する。気軽に意見を出してもらえそうな雰囲気を作る。今回の外部評価で明らかになった課題や取り組みなどについて報告し、協力や助言をいただきながらサービスの向上につなげる。	12ヶ月
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。
目標達成計画